



食育の芽



第17号 2022.1発行
発行：すみだ食育goodネット事務局

新たなネットワークづくりを目指し

トークライブ「食で！」地域をデザインする

千葉大学 環境デザイン研究室と開催！

2021年11月26日、『トークライブ「食で！」地域をデザインする』が、すみだ食育goodネットと千葉大学環境デザイン研究室によって実施されました。

goodネットは、2021年の夏、墨田区食育推進計画改定に伴い地域で食育活動をする団体などのヒアリングを行いました。そのひとつが、同研究室だったのです。ヒアリングを進めるうち、同研究室の取組はgoodネットと共通する部分が多いことがわかってきました。

食を手段に人と人、地域と地域をつなぐことを目指すgoodネット。環境をデザインすることで人とのつながりをつくることを目指す同研究室。「人を豊かにしたい」「つながりをつくりたい」という想いが共通していたのです。お互いの活動をより深く理解できる場をつくることで、新たなつながりが生まれるのではないかと。そんな思いから、トークライブを実施することになったのです。

環境デザインの取組とは？

2021年4月、千葉大学墨田サテライトオフィスは、旧すみだ中小企業センターを改装したキャンパスで始動しました。その1年半前から、環境デザイン研究室は墨田区内で活動を開始。人

を取り巻く環境の総体をデザインの対象として捉え、デザインによって人々の暮らしがよりよく変わることを目指し、キラキラ橘商店街などで人とのつながりを育む活動をしています。



お互いの活動を知る

トークライブでは、千葉大学環境デザイン研究室とgoodネットが、お互いの活動を「栽培」と「防災」、2つのテーマで発表しました。



「栽培」で地域をデザインする

千葉大 グリーنز

目指しているのは、商店街の店舗と地域の人をつなぐこと。そのために同研究室で研究してきた「植物工場」を活かし、近隣の住民の協力でハーブを育成。育てた苗はキラキラ橘商店街の店舗内の植物工場で栽培し、収穫したものはお茶やパンなどに活用されています。



店舗に置かれた「植物工場」で育成される植物の状態を確認



研究を担当する同研究室学部4年の國井瞳さん

すみだ すみだ農園

墨田児童会館の園庭でトマトなどの野菜を栽培。さらに、会館を利用する児童にはトマトの苗を配り、自宅で栽培してもらう取組を10年間実施。「子どもたちとトマトを育てていたら、地域が生まれ、絆が深められた」という館長の名言が生まれました。



児童館で配布された苗を自分の手で植え、自宅で育てる



子どもたちが園庭のトマトの世話をしている

「防災」で地域をデザインする

千葉大 もぐもぐぼうさいひろば

「いつもの活動がもしものそなえに」をテーマに、防災食として乾燥野菜を作る活動をしています。楽しく活動を通して、防災を自分事にとらえ、区内の町会の防災訓練にも参加。事前に作りおいた乾燥野菜を食材にして料理をし、一緒に食べました。



防災の一環として行われた乾燥野菜づくり



研究を担当する同研究室修士2年の鈴木翔子さん

すみだ 災害時ココからプロジェクト

災害時の食支援は、いのちに関わる大切なことです。イベントなどに参加して、災害時の食について普及啓発をしました。食物アレルギーがある方など、災害時に多様な食の支援が必要であることを、協賛企業の協力を得て伝えています。



イベント会場に来場した人に直接説明する



協賛企業の協力で、災害時に役立つ食品などを展示

すみだ 食育防災町歩き

参加者は墨田児童会館を利用する小学生。目的は、自分が住む地域を歩き防災について知る、また、災害時に口にできるものを知る機会の提供です。活動は地域の消防士、防災士、たもんじ交流農園、魚八栄五郎商店などの協力で実現。幅広い協力を得られたのは、すみだ農園で生まれたつながりと絆があったからです。



消防士や防災士の案内で防災施設を見学



たもんじ交流農園で野菜を収穫、その後、すいとんに入れて食べた

「食で!」地域をデザインする その原動力を知る

トークライブでは、活動を進める原動力について語りました。また、最後にコメントーターからのアドバイスがありました。

共に考え、共に変わっていく



千葉大学環境デザイン研究室 教授
原 寛道さん

活動に関わる人たちがお互い主体者意識をもつこと。「誰かに頼めば実現する」という考え方ではなく、共に考え、変わっていこうとする意識が大事ではないかと思えます。すみだのみなさんと一緒に取り組み、一緒に成果を出して、共に成長していきたいと考えています。

「喜ばれたこと」が力になった!



すみだ食育good
ネット 理事長
佐伯 信郎

私が good ネットに参加したのは、商売(パン屋経営)に役立つのでは、という邪(よこしま)な想いからでした。でも、自分にできることをして喜ばれるうちに「喜んでもらえるならお役に立ちたい、一緒に取り組んでいきたい」という気持ちになりました。それが自分にとっての原動力だと思います。

トマトを育てたら、絆が生まれた

すみだ農園の取組で地域が生まれ、さらに絆が生まれたと感じます。コロナ禍でも、多くの団体とつながることで子どもたちの育みと支援の輪が広がりました。そして新たな活動から、また新たな絆が生まれていく気がします。



フレンドリープラザ
墨田児童会館 館長
八重田 裕一朗さん

夢を共有して、想いを重ね合う

good ネットは、いつも区と力を合わせて、協働で取り組んできました。区だけではできない、民だけでもできない官民協働の取組は、官と民が夢を共有して想いを重ね合い、一緒に歩んでいくことが大切だと思います。



すみだ食育good
ネット 副理事長
青島 節子

コメンテーターのみなさんから

すみだの魅力は
多様な入り口があること



早稲田大学
政治経済学部4年
小泉 勇輔さん

すみだには、幅広いコミュニティがあって、様々な活動をしていることが魅力だと感じています。今後、つながりを育み新たな活動が生まれ、より多くの人に関わりたいと思うような地域に育ってほしいと思っています。

地域を好きになることが
大きな力に



早稲田大学
商学部2年
成田 知樹さん

地域に関わる原動力は、その地域を好きになることだと思います。好きになれば、その地域にもっと関わりたい、住む人を豊かにしたいという気持ちになります。そして活動を通して住んでいる人が笑顔になれば「新たな活動を始めよう」となっていくのだと思います。

指標を開発して
活動が見える化する



Japan Youth platform
for Sustainability
事務局アドバイザー
大久保 勝仁さん

活動の成果を「まちや人を育む」「喜んでもらった」といった手触りのある言葉に落とし込むだけでなく、指標を開発して評価することも大切だと思います。個人的には、お互いの活動の関連する部分はどう統合され発展していくのか楽しみです。

トークライブから 新たなつながりが!

トークライブでは、活動を通して実現したい夢が語られ、参加者からのアドバイスもありました。終了後には、参加者同士の新たなつながりや情報交換も行われ、次なる取組を模索する動きも始まりました。

ほんとうに実現したいことは何?



トークライブ終了後、成田さん(写真左)と國井さん(写真右)が情報交換を行っていた

トークライブ終了後、植物で商店街の店舗と地域の人をつなぐ研究について発表した、千葉大学環境デザイン研究室の國井さんと、早稲田大学の成田さんが熱く語り合っていました。成田さんの「研究を通して、ほんとうに実現したいことは?」という問いかけに、國井さんは、実現したい夢を言葉にしていました。

違う分野の人に 会ってみたら

國井さんの発表を聞いていた参加者の浅野さんは「私も地域で活動をしていて、思ったよりも活動が広がらないと感ずることがあります。そういうときには、自分とは違う分野の方に会うことで、人と人がつながり、その先の展開の糸口が見つかることがあります」と体験を語ってくれました。



すみだ食育
goodネット会員
浅野 正樹子さん

自分が住む町会でもやってみたい!

以前から地元の子どもたちに、住んでいるまちと人を身近に感じ、防災意識をもってほしいと鈴木さんは考えていました。トークライブで「食育防災町歩き」の話を聞き、平時から隣近所を知る体験は災害時に生きるはずだと考え、町会の役員の方に取組を紹介し「来年には実行したい」と意気込みを伝えました。



すみだ食育
goodネット理事
鈴木 清子



トークライブに 参加した方の声

様々な事例報告をお聞きして、児童館が拠点となれる可能性が多くあると感じています。

フレンドリープラザ文花児童館
岩澤 和樹さん

すみだと大学のコラボ、まちづくり、地域の絆が強くなる食育で、児童館、子どもたちもますます元気になっていきたいと思ひます。

さくら橋コミュニティセンター
堀口 廣司さん

食で! 育む 3つのチャレンジ

設立10周年を迎えた「すみだ食育 good ネット」は、行政と協働で様々な取組を行ってきました。今後は、新たに3つのチャレンジに取り組んでいきます。

① 食育で 「しくみ」づくり

good ネットは、行政中心の食育推進に留まらず「食」を手段として人をつないできました。これは「SDGs」のパートナーシップにつながると考えます。今後は行政との協働を行うため「10年プロジェクト」をスタートさせます。

② 食育で 地域の「拠点」づくり

「SDGs」のパートナーシップを意識し、今後の食育推進に取り組むには、区内の団体等や他地域との交流が大切です。そのためにも「人と人」が気軽に集まり話し合いができる「拠点」づくりの準備を進めていきます。

③ 「未来プロジェクト」 へのあゆみ

食育で「人と人」がつながり、次々と新たな取り組みを創生する「拠点」が生まれ、世代や分野をこえたネットワークが育ち、日本全国、世界へ交流の輪が広がる。この夢を実現するため「未来プロジェクト」に取り組んでいきます。